

# 熊本県農業共済組合 参事 本田博明

## 1 熊本県の概況

熊本県は九州の中央に位置しています。県土の全体的な地勢は、有明海、八代海に沿って平野部、山地部が縦方向にそれぞれ広がっており、これに宇土半島、天草上島・下島が突起状に連なっています。

山地部の中心部、大分県との県境近くの世界規模の阿蘇カルデラ（東西：18km、南北：24km）が中央構造線の上に位置しており、県の総面積は約7,409km<sup>2</sup>（全国で15位）で、その約6割が森林で占められています。

気候は、西側は海に面しており、その他は山々が連なっているため、地域によって気候が異なります。熊本平野周辺は、夏は暑く冬は寒い内陸性気候で、天草地方は海洋性気候に属し、沿岸部はサンゴ礁の最北限となっています。南部の球磨地方には盆地があり、夏は暑く冬は厳しい寒

さとなります。阿蘇外輪山に囲まれた阿蘇地方は山地型気候で、夏は比較的涼しく、冬は氷点下まで温度が下がり、積雪も見られます。

人口は、平成10年を境に減少傾向にあり、令和2年10月1日時点、14市24町7村で173.6万人となっています。

農業以外の主な産業としては、豊富な水資源を生かした半導体、輸送用機器、生産用機械器具、食料品の製造業が盛んです。人と情報が集中する九州の中心を目指し、企業誘致なども行われています。

また、豊かな自然環境は、観光の分野でも生かされており、風光明媚な阿蘇や天草には、毎年、全国から多くの観光客が訪れています。



## 2 熊本県の農業

管内では、気候や地形を生かした農業経営が行われています。米の生産では西日本有数の県であるとともに、平野部では野菜などの施設園芸が盛んで、トマトやスイカは全国一位の生産量です。ナスやメロンなども全国屈指の生産量を誇っており、整備された交通網を生かして大阪や首都圏まで出荷されています。

また、温州ミカンや、甘夏、デコポンなどの中晩柑の生産も盛んに行われています。その他にも菊池・阿蘇・球磨地方などの山間、中山間地では畜産が盛んで、特に乳用牛は西日本一の規模であり、県の農業産出額は全国で6位の3千364億円（=令和元年農林統計）となっています。

現在、県内の農業経営体数は、個人、団体を

合わせて33,952経営体となっています。年々減り続けているものの、所得向上のため、高品質化、生産安定、コスト軽減の取組と併せて、広域



熊本県産トマト



植木青果市場に並ぶスイカ

農場（メガ法人）の育成や農地集積を行っています。また、生産条件に恵まれていない中山間地においても、農地集積への支援やきめ細やかな基盤整備、小面積でも農業所得を確保できる施設

園芸や商品性の高い品目の導入など収益の柱となる農産物の生産を推進し、「稼げる農業」の更なる加速化へ向けての様々な取り組みが図られています。

●農業産出額の推移

都道府県	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	
							実数	対前年比
熊本	3,250	3,283	3,348	3,475	3,423	3,406	3,364	-1.2%
九州	16,731	17,017	17,541	18,204	18,356	17,856	17,520	-1.9%
全国	85,748	84,279	88,631	93,051	93,787	91,283	89,387	-2.1%

(金額単位：億円)

※農林水産統計より抜粋

### 3 熊本県農業共済組合の概要

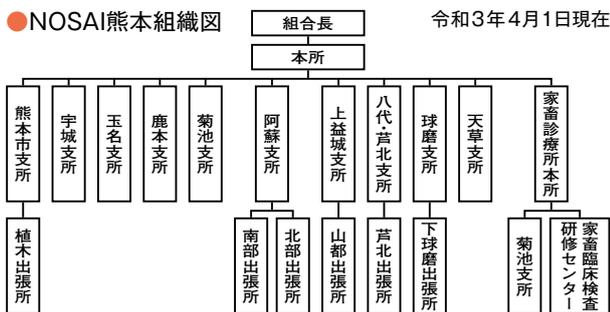
NOSAI熊本は、平成12年に、全国初の県下一つの特設組合として発足し、今年で21年目となります。

現在、組合員数47,233名、総代176名、損害評価会委員30名（本所）、損害評価会小部会委員

825名（支所）、共済部長4,693名、損害評価員4,710名となっています。

本所、10支所、6出張所、及び2診療所の組織体制のもと、理事11名、監事3名、一般業務職員206名、獣医師15名で農業保険の実施に努めています。

●NOSAI熊本組織図



NOSAI熊本本所

### 4 熊本県農業共済組合の活動

全国各地で多発する自然災害や市場価格の低下、未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症など、農業経営における様々なりリスクに対し、農業共済と収入保険の2事業を両輪とし、関係機関との連携のもと農業者のニーズに沿ったセーフティネットの提供に、「安心の未来」拡充運動のスローガンである「より広く、より深く、農家のもとへ」を念頭に、役職員関係者が一丸となって取り組んでいます。

また、これからも迅速で均質なサービスを提供し、更なる普及推進・引受拡大に努めていきます。そして、地域や農家との絆を深めて農家経営の支えとなり、地域農業に貢献していきたいと考えています。



広報誌ひのぐい